

2017 年度活動報告 初等部訪問

藤原 由紀子（関西学院大学 日本語教育センター）

1. 背景

本活動は 2008 年度から行われ、本学留学生が関西学院初等部を訪問し、児童と英語・日本語で様々な活動をし、交流の機会を持つものである。昨年度までは、初等部と本センターとの共同開催であったが、開催時期など様々な事情から、今年度より初等部が主催となり、本センターでは初等部の依頼を受けてボランティア参加者を募り、当日留学生を引率するという形で実施することとなった。

2. 活動内容

今年度は、2018 年 1 月 18 日に 21 名、25 日に 14 名（延べ 35 名、実質 30 名）の交換留学生が初等部を訪問した。交流は、主に 4 年生の児童を対象に行われ、簡単な英語で留学生が自己紹介を行い、その後、少人数グループに分かれ、児童による学校案内ツアーや英語を用いたゲームなどが行われた。学校案内ツアーでは、児童がこの日のために覚えた英語のフレーズを使って案内や質問を行った。また、留学生は写真を用いて、英語で自分の出身国を紹介し、交流を深めた。留学生は休み時間にも、子どもたちと一緒にカルタで遊んだり、楽器を弾いたりするなど、積極的に交流する姿が見られた。4 年生との交流授業後には、初等部の英語教員が小学校の年間行事について説明するミニ講義や、各学年の授業風景を見学してまわる活動などがあり、留学生にとって日本の小学校や教育制度について知る貴重な機会となった。

3. 学生アンケートの結果と所感

活動後に行ったアンケートでは、本活動が交換留学生にとって良い活動かどうか尋ねる問いに対して「とてもいい (93%) / いい (7%)」と全員が非常に高く評価しており、その理由として、日本の子どもと教育制度を通して、日本文化について学ぶいい機会である、教師になりたいと思っているので、日本の小学校を見学できるのは貴重である、などの回答が見られた。また活動内容についても「とても楽しかった (93%) / 楽しかった (7%)」と参加者全員が肯定的な回答であった。このような交流活動は、教員の目から見ても、①留学生が普段接することが少ない年齢層との交流を図ることができる、②日本の小学校を見学し、自分の国の教育制度との違いなどを発見することができるなどの点から、日本の大学や社会への理解を促進する上で意義ある機会であると言えるだろう。